

2026年度(令和8年度)

夏休みにおすすめする本

選定 北海道学校図書館協会

選定協力 札幌市学校図書館協議会

	表紙画像	書名 著者名他 ISBNコード	出版社 出版年(月) 税込価格	※選定コメント もしくは出版社による紹介など
幼児				
1		いっしょにえんそく 松田 奈那子/作 978-4-652-20740-6	理論社 2026.4 1,650円	遠足に大好きなコロと行くつもりだった。でもコロはお留守番。でもぼくとコロの心はつながっているんだ。ねことぼくの遠足が心豊かに広がる一冊。 一何して遊ぼうか？一お弁当はどんなかな？ねことぼくの二人だけの遠足。
2		なぞなぞ 安野 光雅/作・絵 978-4-8340-8887-8	福音館書店 2025.12 1,320円	安野光雅の絵本「こどものとも」の一冊。絵で楽しむなぞなぞ絵本。なぞなぞの絵のお話も紹介されていて楽しめる。 生誕100年。安野光雅さん、さいごのおくりもの。 かほちの馬車に乗ってお城の舞踏会に行ったのは、誰でしょう？ 読んであげるなら4才から。自分で読むなら小学校初級むき。
3		コット、はじめてのドライブ 阿部 結/著 978-4-333-02950-1	佼成出版社 2026.3 1,870円	大好きなお父さんと、はじめてのドライブ。通り雨、白鳥、桜の木…お父さんは一つ一つ教えてくれる。移りゆく世界を見ながらお父さんは、コットに「ずっと変わらない大切なこと」を伝えてくれた。 大好きなお父さんと、初めてのドライブ。通り雨、白鳥、桜の木…お父さんは、コットの目に映るものをひとつひとつ丁寧に教えてくれる。移りゆく世界を見ながら、コットはふと思った。ずっと変わらないことってあるのかな—お父さんがくれた、とっておきの言葉とは…？
4		星空キャンプ 村上 康成/作・絵 978-4-19-866184-7	徳間書店 2026.3 2,310円	地面のごつごつが、少し痛いけど、地球のベツは気持ちいい。ミナはお父さんとお母さんと湖のほとりにやってきた。一週間のキャンプ。どんな出会いがあったかな。 ミナは、お父さんお母さんと三人で、湖のほとりでキャンプしています。ここにいるのは、ミナ達一家だけではありません。湖には、大きなマスがいるし、ガンの一家がテントのそばまでやってきたこともあります。お母さんと、キイチゴをつんで、おなかいっぱいになると、残りはジャムに。キャンプ場で出会った子は、イトトンボの幼虫を見せてくれました。動物も人間も、みんなおんなじ空気をすっている。みんな、おんなじ星の上で生きている。ミナは、地面のごつごつがすこしいけど、なんだか地球のベツはきもちがいい、と思いました。自然派アーティストによる、地球讃歌の絵本。
5		だいじだいじ ぼくのからだ 平山 和秀/監修 佐々木 一澄/絵 978-4-299-07373-0	宝島社 2026.2 1,430円	「おちんちんはとても大切な場所」が書いてあります。お風呂できちんとおちんちんを洗おう、むけるって何？など性のケアを家族みんなで学ぶ絵本。 幼少期の男の子が自分のからだに関して抱く疑問や不安に寄り添いながら、デリケートゾーンの正しいケアについて学べる絵本です。男の子にとって、からだの変化やお風呂での洗い方などは身近でありながら、適切なタイミングで学ぶ機会が少ない分野です。本書では、男の子とお父さんのお風呂での会話を通じて、男性と女性のからだの違いや、男の子のからだの成長過程、正しいからだのケア方法を学ぶことができます。家族みんなで性について考え、性の悩みを相談しやすい環境を作るきっかけになる一冊です。
小学校・低学年				
1		たびするこいし たかお ゆうこ/作 978-4-06-542580-0	講談社 2026.4 2,090円	小石は地球のひとつ。1つの小石から想像をはばたかせていくと…。特別だと感じる小石を見つけたら、にぎりしめてどこまでも旅に出よう。 小石は地球のひとつ。同じ小石は一つとしてない。この一冊が、想像力をはばたかせ、新しい世界へと踏み出す一歩になる。46億年の物語を握りしめて、さあ、旅に出かけよう。
2		いもうとのデイジー 男の子だと思っていたきみを、 女の子としてうけいれるまで エイドリア・カールソン/作 ライナス・クルチ/絵 松浦 直美/訳 978-4-03-348700-7	偕成社 2026.3 1,870円	わたし、ほんとは女の子だよ。変化にとまどうきょうだいの視点からトランスジェンダーの子どもと家族のかかわりをえがきます。作者の実話をもとにした絵本です。(帯より) 「わたし、ほんとは女の子だよ。」これまで、なかよしの弟だと思っていたきょうだいが、ある日、自分は女の子で、デイジーと呼んでほしい、といいます。変化にとまどう兄の視点から、トランスジェンダーの子どもと家族のかかわり、いかに受け入れていくのかを描く作者家族の実話をもとにした絵本。
3		それいけ、ヴォルフガング ヴァージニア・カール/作・絵 松井 るり子/訳 978-4-19-866069-7	徳間書店 2026.3 1,980円	ヴォルフガングは恐ろしく大きな犬。でも失敗だらけでまわりはあきれたり困ったり。関わる人々とヴォルフガングの温かい関係に心が温くなる一冊。 働き者ばかりの村で仕事が無いのは、犬のヴォルフガングだけ。花屋さんを手伝うには大きすぎるし、おまわりさんを助けるには賢さが足りないし、羊の番をするには、やかましく吠えるからです。そこで、飼主のおばあさんはミルク売りをすることに。ヴォルフガングに、荷車をひいてもらおうです。「準備万端、それいけ、ヴォルフガング！」ところが！ シンプルなイラストとユーモラスなおはなしがマッチした楽しさあふれる絵本。
4		ネコは天気をあてられる？ かんちく たかこ/文 高橋 和枝/絵 坂崎 希実/原案 978-4-	講談社 2026.3 2,090円	「ネコが顔を洗うと雨」ってほんとう？おばあちゃんの言葉をふしぎに思って研究した坂崎さんの実験が絵本となった。なぜ？と実験する心を育てる一冊。実験は楽しんでなんぼ！ 筑波大学 朝永振一郎記念「科学の芽」賞受賞作を絵本化！ 本作は、「猫が顔を洗うと雨が降る」とおばあちゃんから聞いたことから、飼い猫と天気の関係を探った小学6年生の受賞作の絵本。猫が顔を洗った次の日の、天気は？ 気温は？ 湿度は？ さまざまに調べた結果は……？自由研究や理科の課題の参考にもなる絵本。




5		ゆらゆらなじかん クレア・ヘレン・ウェルシュ/文 フィオナ・ランバース/絵 石津 ちひろ/訳 978-4-7764-1174-1	BL出版 2026.1 1,760円	新しい家に引っ越したけど、自分の家って思えず不安なわたしに、おばあちゃんは「ゆらゆらなじかん」を楽しむことを教えてくれて…。 おばあちゃんは、知っています。引っ越してから新しい家に慣れるまでの間は「ゆらゆらな時間」だということを。そして、不安な気持ちをどうすればいいのかも！教えて、おばあちゃん！ゆらゆらな時間って、なあに？新しい世界に踏み出す力をくれるお話。
6		じいじがおしえてくれたこと アンナ・ウィルソン/作 サラ・マッシーニ/絵 長友 恵子/訳 978-4-86549-369-6	ひさかた チャイルド 2026.2 1,650円	「わたし」とじいじが川で釣りしているとカワセミが飛んでいった。ひなが生まれ巣立ち、そのひながまた親になる。じいじがわたしに「おまえもいつか大人になる。そうやってめぐっていきんだよ」と、自然界の循環を教えてくれる。 命はずっと続いていく美しい四季の風景の中で描かれる生命賛歌じいじと女の子の目の前を青い鳥が横切っていく。「カワセミだ！」カワセミは春につがいになり、夏には卵を産み、秋にはヒナが大きく育ち、冬にはいなくなりました。命には限りがある、死んだ親鳥のあとをヒナが継ぐと教えるじいじ。「そんなのいや！」と女の子は言いますが……。おまえもいつか大人になる。親になって歳とっていく。そんなふうには命は続いていく季節と同じように命にもサイクルがあり、死の先に確かな希望があることを、子どもたちが受けとめやすいように導いてくれる絵本。
7		ぼくをグレーってよんで アンドリュー・ラーセン、ベルズ・ラーセン/文 タルーラ・フォンテーヌ/絵 石井 睦美/訳 978-4-89572-169-1	光村教育図書 2025.12 1,760円	毎年冬になるとババとぼくは2人でスケートリンクを作る。でも今年は何かが違う…親友のゼナのお泊りに女の子だけだったから呼ばれなかったこと、自分が何者かわからなくなること、女の子みたいに感じていることなど、子どものとまどいや変化を親が受け止めていく過程をあたたく描いている絵本。 アンドリュー・ラーセンと、その子ベルズの共作による本書は、ベルズ自身のトランスジェンダーとしての経験に着想を得て生まれました。自分が感じていることを親に受け入れてもらえたときの子どもの喜びと安心、また、子どもの変化や戸惑いを家族が理解し、受けとめていく過程を、あたかなまなざしで描いています。たとえ自己認識が変わっても、家族の中での居場所は決して失われることはない—そんな変わることのない愛の確かさ、やさしさを伝える絵本です。ジェンダーアイデンティティに迷いを感じる子どもと、その子を支える家族の対話の糸口になってくれることでしょう。
8		なきむし なきこちゃん ザ・キャビンカンパニー/作 978-4-8340-8928-8	福音館書店 2026.5 1,870円	泣き虫のなきこちゃんがある日泣いていると、涙が部屋からあふれ、海になり…。「泣きたいときは泣けばいい」と子どもの涙に寄りそう絵本。 なきこちゃんは泣き虫です。ある日、なきこちゃんが泣いていると、涙が部屋からあふれて家の外へ流されてしまいました。なきこちゃんは涙の海を独りぼっちで漂います。途中、鳥や魚が声をかけますが、なきこちゃんの涙は止まりません。そこへクジラがやってきて、なきこちゃんは今までで一番の大きな声で泣きました。「たくさん泣いていいんだよ。おおきな海をつくりなさい」。泣きたいときは泣けばいい。泣くことを肯定する絵本
9		ポーはゆめをみる エスベン・デッコ/文 マーリ・カンスタ・ヨンセン/絵 村井 理子訳 978-4-593-10557-1	ほるぷ出版 2026.4 1,980円	ゴールデンレトリバーのポーは、うさぎを追いかけていた若い頃の夢をよくみていて、ゆっくりと老いていく。飼い主のエドワードとの愛あふれる生活と、おとすれた別れを温かなタッチで描いた絵本。 いつもとなりにいた「家族」がもうあるかなくてもよくて、もうおなかすいていなくて、やがて、ずっとのねむりにつく。それでも、「いままで」がある。おなじように。しずかにおとすれる、愛犬の老いと死。大切な「家族」とお別れしたことのある、すべての人へ。「犬がいるから」ほか 翻訳家・エッセイスト村井理子初訳の翻訳絵本。
10		ほごねこ そつぎょうしき 高橋 うらら/作 玉木 たま/絵 梅田 達也/監修 978-4-265-83260-6	岩崎書店 2026.5 1,760円	保護猫活動の取材から生まれた絵本。猫たちが人に慣れ新しい飼い主が見つかるまで一時的に預かり世話をするボランティア親子の目線で描いた絵本。監修：ねこかつ代表 梅田達也 保護猫を預かることになった！猫たちが人に慣れ新しい飼い主が見つかるまで一時的に預かり世話をするボランティア親子の目線で描いた、保護猫活動の取材から生まれた絵本。児童向けノンフィクション読み物『保護ねこ活動ねこかつ！』ずっとのおうちが救えるいのちの著者高橋うららさんが、ねこかつや保護猫活動の取材から、保護ねこを一時的に預かる「預かりボランティア」の目線で描いた絵本。ねこかつ代表の梅田達也氏が監修を務めている。
小学校・中学年				
1		ひろしま絵日記 中澤 晶子/作 ささめや ゆき/絵 978-4-338-19247-7	小峰書店 2025.6 1,430円	夏休みにひいおばあちゃんの家に泊まりにいったみなみちゃん。見つけた古い日記帳から戦争当時の暮らし、原爆のことを知る。 夏休み、ひいおばあちゃんの家にお泊まりにいった小学2年生のみなみちゃんは、押し入れの奥にしまわれた古いノートを見つけます。それは、ひいおばあちゃんの妹、まさこちゃんの日記でした。まさこちゃんは国民学校2年生。日記には、戦争のために雑祭りを我慢したこと、お姉ちゃんが疎開に行って寂しいこと、防空壕に逃げたことなど、みなみちゃんが知らない暮らしが書かれていました。みなみちゃんは、ひいおばあちゃんといっしょに日記を読み進めながら、当時の暮らしや戦争の様子、そして原爆のことを知ります…。
2		虫なんてとってどうするの ぼくとおじいちゃんの虫日記 横山 寛多/著 北野 伸雄/監修 978-4-333-02953-2	佼成出版社 2026.4 1,650円	虫好きなおじいちゃんと孫の二人が虫とりを楽しむ。4コママンガ・コラム・図鑑・豆知識などで虫の紹介をしている。読んだら絶対虫とりに行きたくなる本。 「虫なんてとってどうするの」って言う人もいるけれど、虫とりは最高に楽しい！楽しいことに、意味なんていらぬ。だからぼくは、今日も虫とりに行くよ。虫とりができる季節には、毎日のように虫とりに満喫している。虫が大好きな作家、横山寛多が描く、虫好きな子とまわりの大人たちへ贈る、虫とり入門。虫好きなおじいちゃんと孫のふたりが、とにかく虫を楽しみつくす一冊！
3		もしかしてキセキ なががわ ちひろ/作 978-4-905015-88-8	のら書店 2026.4 1,650円	一平君のクラスに、メキシコからカルロス君という転校生がやって来た。カルロス君は日本語を話せないが、二人は通じ合って…。大切な出会いを描いた物語。 一平くんのクラスに、メキシコから転校生がやってきました。名前はカルロスくん。カルロスくんは日本語を話せないけれど、ふたりはなぜか通じあって……。きつとずっと忘れない、一平くんの大切な出会いを描いた物語。 『すてきなひとりぼっち』『ぼくは、ういてる。』『ちよっとだけどもだち』に続く、一平くんのシリーズ第4弾。
4		伝える力が身につく！ はじめての語彙力えほん 金田一 秀穂/監修 978-4-284-00160-1	日本図書センター 2026.4 1,650円	ことわざ、慣用語、四字熟語などを紹介して語彙力をアップして自分の世界を広げていける本。絵や構成に工夫があり楽しく学ぶことができる。 ことわざ、慣用語、四字熟語、故事成語など、語彙力がアップする絵本。5歳から読める！わかる！7ジャンル154語を紹介。わかる！ことばの力を身につけることは、一生の宝物！豊かなことばの世界に会おう。

5		ほんとうのよるをさがして 2026.2 978-4-566-08113-0	評論社 2026.2 1,980円	夜になっても人工のあかりで眠れないキツネと虫は、本当の「くらやみ」を求めて旅に出る。鳥・カエル・クマも、明るくて困っていた。「光害」について語られる数少ない絵本。絵も良い。 よるがきて、キツネは「くらやみ」をまっていた。でも、あたりはひかりでいっぱい。またたくひかり、きらめくひかり、まばゆいひかり、ちらつくひかり。キツネとムシは、「くらやみ」をさがしに、たびにでました。「くらやみ」をもとめるいきものたちがつきつきとなかまにくわります。はたしてどうぶつたちは、「ほんとうのよる」をみつかることができるのでしょうか。光害でできずついた世界で、「くらやみ」へのおもいをこめてえがいた絵本。あかりを消すことの大切さを、そっと、そして力強く伝えます。みんなが、ほんとうの夜に出会えるように。
6		虫をみつけよう 飼ってみよう ①公園・庭・畑の虫 筒井 学/文・写真 978-4-03-528710-0	偕成社 2025.7 3,300円	テントウムシやモンシロチョウなどの身近な虫の採集の仕方、飼い方、生態などが写真入りでくわしく紹介されている。観察に役立つ一冊。 ナナホシテントウ、ナミテントウ、オオニジュウヤホシテントウ、モンシロチョウ、アゲハ、ヤマトシジミ、バニシジミ、ツマグロヒョウモン、オオスカシバを紹介。 虫ごとに、野外でさがして発見する→とらえて持ちかえる→飼育して成長や脱皮、羽化などを観察する、という3ステップで示す児童向けのくわしい昆虫飼育本。
7		ダンゴムシは めいろのたつじん? かんちく たかこ/文 スギヤマ カナヨ/絵 橋本 類/原案 978-4-06-542246-5	講談社 2026.1 2,090円	身近にいるダンゴムシ。実は迷路の達人!?ダンゴムシの秘密を色々な実験で大研究。 ダンゴムシがジグザグに進むのはなぜ?まるまるだけじゃない!ダンゴムシのみみつを大研究!筑波大学朝永振一郎記念「科学の芽」賞受賞作を絵本化!
8		空となかよくなる天気の写真えほん くものしくみ 荒木 健太郎/文・写真・絵 978-4-323-02827-9	金の星社 2025.11 1,540円	雲はどうしてできるんだろう?雲の仕組みを雲研究者が写真とイラストで詳しく説明。「空となかよくなる天気の写真絵本」シリーズ。 くものなまえ、そのいろ、かんてんぼうき、ふしぎなくも、にじ、そののじにいる、くものしくみ、そののひかり、あめ、かせ くもは、どうしてできるんだろう?映画『天気の子』気象監修をつとめ、日々、雲のしくみの研究に取り組む人気雲研究者が、写真でひもとく雲と空のふしぎ! 思わずのりたくなるフワフワの雲。でものことはできません。雲は水や氷の粒が集まったものだからです。ではなぜ雲の色は白や灰色、赤等になるのでしょうか?形も性格もいろいろな雲の仕組みを人気雲研究者が解き明かします。
9		2026北海道指定図書 知ったかぶりをした日から かさい まり/作 おとない ちあき/絵 978-4-265-84066-3	岩崎書店 2025.10 1,430円	東京から北海道に転校してきた風子の軽い気持ちで言った一言が大変なことに…。知ったかぶりを反省して成長していく物語。 軽いきもちの一言が大変なことに!東京から北海道に転校してきた風子は、早く友だちを作りたくて、つい知ったかぶりをしてしまう。そのせいで…。
10		ハチミツとミツバチ アン・ロックウェル/作 S.D.シンドラー/絵 いわけよう よしひと/訳 978-4-7690-2360-9	好学社 2026.5 1,980円	どのようにハチミツが作られるのか?女王バチや働きバチの生態を、詳細で丁寧なイラストと説明で知ることができる科学絵本。 春から夏、ミツバチたちがいそがしそうに花の蜜を集めています…。どのようにハチミツが作られるのか、女王バチや働きバチの生態を美しいイラストで詳しく知ることができる科学絵本。
小学校・高学年				
1		ひとりぼっちのペア ハンナ・ゴールド/作 田中 奈津子/訳 978-4-86389-945-2	静山社 2025.12 2,035円	父の仕事でペア島で暮らすことになったエイプリル。ある日1びきのホキョクグマを見かけるが、この島にはもうクマはいないと信じてもらえない。氷が溶けてこの島に取り残されたクマをふるさとへ帰してあげようとする行動に出る…。 小さな一歩が、やがて未来を救う一少女とクマの出会いが教えてくれる地球からのメッセージ。
2		野鳥はともだち バードウォッチングをひろめた フローレンス・メリアム・ベイリー ジェス・キーティング/文 デヴォン・ホルズワース/絵 さくま ゆみこ/訳 978-4-86412-449-2	子どもの未来社 2026.1 1,980円	ハードウォッチングを広めて野鳥の魅力をつたえた鳥類学者フローレンス・メリアム・ベイリーの伝記絵本。バードウォッチングが、野鳥を観察して楽しむだけでなく、鳥たちの棲む自然を守ることにつながっていることを教えてくれる。 フローレンス・メリアム・ベイリーは、生まれつきの鳥好きでした。アオカケスと木の実を分け合い、キツツキが木をつつく音に合わせておどることが大好きでした。そのころ、野鳥は、ぼうしのかざりに使われ、学者は死んだ鳥を観察することで鳥について研究を深めていたが、フローレンスは鳥は自由に空を飛んでこそ!と、信じていました。そして、当時は一般的ではなかったバードウォッチングを広めていきました。アメリカでは多くの人がバードウォッチングを楽しむようになり、野鳥とその環境を守る運動にも発展していきました。バードウォッチングを広めた鳥類学者、フローレンス・メリアム・ベイリーのいきいきとした伝記絵本!
3		ばんざい! ほくらのフシギ島 悩んだら、いつでも来んね 辻堂 ゆめ/作 978-4-07-462574-1	主婦の友社 2026.3 1,430円	全国から離島留学生が来る夫志木島。楽しいことばかりの島の生活だったが、小さな謎めいた出来事が起こり始める。留学生としてやってきた涼は親友になった島民の才津と謎を解き明かしていくが… 西の海に浮かぶ夫志木島には、全国から離島留学生が来る。小学6年の涼もその一人。美しい自然とおいしい食べもの、温かな島の人たちに囲まれた生活は楽しいことばかり。ところが身の回りに奇妙なできごとが起こり始めた!涼は親友の才津と真相解明に乗り出すが…なぜか解けるたびに元気になる、楽しくてやさしいなぞ解き物語!
4		出合ったらどうする? 野生のほ乳類 1 クマ 山崎 晃司/監修 ゴトウ ノリユキ/イラスト 978-4-494-02904-4	童心社 2026.3 3,080円	近年、街に出没し世の中を騒がせているクマ。もし、出合ってしまったらどうしたらいいのか分かる1冊。ただこわいだけではなく、どうして街に出るようになったのか等、歴史や写真やグラフとともに考えてみよう。 クマの出没や事故のニュースが世の中をさわがせている。どうしてそうなったの?クマってどんな動物?これまではどうしていたの?そして、これからどうすればいいの?グラフや写真とともに、いっしょに考えてみよう! 「出合ったらどうする?野生のほ乳類」シリーズ3巻 ②シカ・サル・イノシシ ③外来のほ乳類

5		マユ12歳、鍛冶屋でくらしています。 福田 隆浩/著 978-4-7515-3269-0	あすなろ書房 2026.4 1,870円	6年の2学期、あるできごとをきっかけに、学校に行くのがいやでしかたなくなってしまうマユ。しばらく母の弟、おじさんの家で暮らすことを選ぶ。おじさんの職業は鍛冶屋。マユは小学校6年生、12歳の女の子。ある授業中の出来事をきっかけに、学校へ行きたくない気持ちが大きくなったマユ。2学期に入っても、自宅でひきこもりがちだったマユが選んだのは、マユの母親の弟・良おじさんのところで暮らすことでした。良おじさんは鍛冶職人で、鉄を加工して、包丁や鎌、鍬や鋤をつくったり、修理したりしています。テレビの出演をきっかけに、難しい注文に必死に取り組む良おじさん。失敗を繰り返しながらも、決してあきらめない良おじさんの姿を見て、マユの気持ちも段々と前向きになっていき…。
6		ぼくのいうことを、きかないぼく 柴野 理奈子/作 中田 いくみ/絵 トゥレット当事者会/監修 978-4-591-18950-4	ポプラ社 2026.5 1,760円	4年生の頃から、体が勝手に動く、声が止められない衝動に苦しむ駿と、グループを組むことになったワタルと遥斗。バネないようにしようとすればするほど勝手に出てしまう駿を見て、クラスの子や親は、ちょっと変わった子と決めつける。それでもワタルと遥斗は分かったいと、友情のトビラをひらいていく。小学6年生の駿は、体や声が自分の思いどおりにならず、ひとり苦しんでいた。幼なじみの遥斗は、変わってしまった駿の様子に戸惑いながらも、「駿のことを知りたい」と、そっと歩みよる。駿は「トゥレット症」なのか？知らなかった「苦しみ」と、うまく言えない「本音」。誤解が重なり、すれちがっていく心…。それでも、相手に近づこうとする小さな一歩が、友情のトビラをひらいていく。気づくこと、知ろうとすることが、ぼくらの世界を広げていく。
7		夏の迷子 村上 しいこ/作 978-4-577-05475-8	フレーベル館 2026.5 1,650円	複雑な家庭環境にいる純成とみこと。閉ざしていた心をお互いに思い合うことで、少しずつほぐしていく。子どもだけ自分には自分の人生を生きる権利があると、大人や環境に負けず立ち向かう。まだ子どもだけ、子どもなりに、自分の人生があるんだ。そして自分の人生を生きる権利がある。
8		だろぼう妖精と見習い魔女 こまつ あやこ/作 北原 明日香/絵 978-4-86389-882-0	静山社 2026.5 1,485円	見習い魔女コロロは、魔女の師匠レコーニさんからもらったきれいなペンダントを、だろぼう妖精シュテロに盗まれてしまう。100年ほど前からキラキラした宝石ばかりを盗んでいたシュテロ。コロロはだろぼうをやめさせようと、色々考えてみるが… だろぼう妖精がねらうのは「キラキラ」なもの！ところが、盗んだのは言葉をあやつる魔女の大切なペンダントで…
9		ひまわり食堂の忘れ物 西村 友里/作 アヤノ アユ/画 978-4-7743-3965-8	くもん出版 2026.6 1,650円	夏休み中、弟が入院する病院の近くの「ひまわり食堂」に通っている海月。その店主の孫、桜子と常連客の蓮の二人と共に、食堂に残された猫の飼い主を探しはじめる。小学生3人の家族への思いと、自分を大事にする気持ちの間で、ゆれ動く心情を描いた物語。 わたしって、悪い子だ。だってほんとうは、病気の弟なんか…。病院近くの食堂で見つけた忘れ物。六年生の海月・桜子・蓮は持ち主さがしをはじめますが、三人はそれぞれ知られたくない秘密を抱えていた。
10		しらべるふうけいのずかん おかべ たかし/文 やまで たかし/写真 978-4-487-81895-2	東京書籍 2026.6 2,200円	「くねくねの線がひかれた道路」や「ウミガメが泳いでいる学校のプール」など、驚きの風景を紹介。それぞれの風景がそうなる理由を読むと、そこに行ってみたくなる図鑑。理由を想像して楽しむこともできる。 なんだこれ？には理由がある！全国各地でとった32のビックリふうけいから学ぶ！ 1章 えっ！（なぜ「くねくね」？道？かべ？うすくない？ ほか） 2章 おや？（学校にウミガメ！トンネルが五角形？「さく」がないよ！ ほか） 3章 なに？（ここにマル？川の「ぐるぐる」？道の「ぐるぐる」？ ほか）

2026年度(令和8年度)				
夏休みにおすすめする本				
選定 北海道学校図書館協会				
選定協力 札幌市学校図書館協議会				
表紙画像	書名 著者名他 ISBNコード	出版社 出版年(月) 税込価格	※選定コメント もしくは出版社による紹介など	
中学校				
1		君の火がゆらめいている 落合 由佳/作 Jyari/絵 978-4-06-541452-1	講談社 2025.11 1,650円	障がいをもつきょうだいのサポートをする「きょうだい児」。当事者はケアされるが「きょうだい児」の問題は見逃されがちだ。主人公葉澄のように逃げることもできないギリギリの心の揺れ動きを描いた作品。 葉澄には、自閉症をもつ双子の姉・葉々実がいる。「きょうだいだから、葉々実が困っていたら助ける」—大きくなるにつれ、家族を思う気持ちと自分の気持ちとの板挟みになっていた葉澄は、きょうだい児が集まるという「きょうだい会」に出会い…。もしわたしが、きょうだいと別の道を行きたいと言ったら、どうなるんだろう。 【きょうだい児】—障害や重い病気のある兄弟・姉妹がいる子どものこと。
2		ユリの便箋 森川 成美/作 978-4-86389-960-5	静山社 2026.1 1,540円	佐賀から上京して好きな勉強をしたい！瓜二つの双子のうち唄はファッション、ユリは図案を学ぶため、男女入れ替わりをはかる！大正版とつかえばや物語。 第一次世界大戦終戦翌年の大正8年(1919年)。高校を卒業したばかりの力武ユリと唄は、富豪の家へ嫁いだ叔母を頼りに、故郷の佐賀から上京した。ふたりは、男女にしてはめずらしく、容姿までそっくりの双子。図案が好きなユリとファッションに興味津々の唄だが、図案科のある美術学校は男子、裁縫学校は女子のみしか門戸は開かれていない。ある日、ユリが冗談のつもりで口にした「入れ替わりたいのにな」の言葉に、唄は本気で乗り気になって…！

3		ナイチンゲールの風が吹く 大関和と近代看護の物語 田中 ひかる/著 978-4-09-289345-0	小学館 2026.4 1,540円	「卑しい職業」と言われた看病婦。英語に出会い、収入を得るため看護婦の道を切り開いた、大関和の伝記物語。 日本が大きく変わった激動の明治時代。桜井看護学校(現・女子学院)でナイチンゲールの書を翻訳しながら正しい看護の知識を学び、第一医院(現・東京大学医学部附属病院)での実習で技術を身につけた、大関和(ちか)、鈴木雅、広瀬梅などの女性たち。当時は“看病婦”に対する偏見がありましたが、正しい知識と技術で弱っている人々を救う“看護婦”は尊い仕事だと身をもって示し、日本に新しい看護の道を切りひらきました。
4		2026緑陰図書 パルティータを鳴らすまで せやま 南天/著 978-4-02-252100-2	朝日新聞出版 2025.11 1,870円	10年の委託期間を終えたと生みの親の元へ戻るといふ養育里親制度。主人公の拓実(たけみ)は里親の元で音楽と出会う。家族のあり方に悩み、葛藤を乗り越えて鳴り響くパルティータのシーンが読みどころ。 幼い日に実の母と離れ、弦楽器職人の里父のもとで育った中学2年生の時本拓実。10年の委託期間を終え、実母の家へ戻る時間が迫っている。いずれ別れが来ると分かっていた彼は、バイオリンを弾くことだけを好み淡々と日々を過ごしてきたが…。望まないことに慣れてしまった14歳の拓実、引き取ろうと努力する実の母、別れを知っていても愛をそそぎつづけた里親、それぞれの想いは交差する
5		ギアをあげて、風を鳴らして 平石 さなぎ/著 978-4-08-770042-8	集英社 2026.2 1,870円	宗教団体で育った癒知(ゆち)と転校生のクミ。出会った二人の魂が響き合い、子どもだからできないことに、子どもだからこそ出せる行動力で打ち向かう！熱い友情の物語。 小学四年生の吉沢癒知は、宗教団体「荻堂創流会」の近畿支部で「降り子(＝創父の生まれ変わり)」として信徒から崇拝されていた。幹部の母からは、神聖な身体を持つ者として食事や他者との触れ合いを厳しく制限されていたが、自分に寄せられる信徒の信仰心や日々の「儀式」に抵抗をおぼえはじめていた。そんな癒知の前に現れたのは、家庭の事情で何度も転校を経験している渡来クミ。引越当初、近所を散策中に見かけた「めっちゃきれいだった」癒知に興味深々。ある日、学校のトイレで遭遇したことをきっかけに、ふたりは距離を縮めていく。そして繋がりを持ったのは癒知とクミだけでなく、母親同士も親交を深めるようになり……。
6		サフィヤの戦争 ヒバ・ヌール・カーン/作 児玉 敦子/訳 978-4-86389-909-4	静山社 2026.3 2,090円	第二次世界大戦のパリ。イスラム教の寺院で暮らすサフィヤの夢は冒険家。迫害されるユダヤ人を救うため、自分のできることをする。史実をもとにしながら、時系列は変えている冒険物語。 パリにあるイスラム教の寺院に暮らす少女サフィヤの将来の夢は探検家。今日も図書館で本を読み、地図を広げ、元気がいっぱいパリの街を駆けまわっていた。まるで戦争など起こっていないかのように。ある日、通りで声をあげずに泣いている人たちに会うまでは――。
7		透明なぼくらのレモンとキス 神戸 遥真/著 978-4-03-727520-4	偕成社 2026.5 1,650円	声にならない声、無かったことにする意の「透明」。嫌だ、と声を上げることがを恐れてはならない。性別や習慣、常識とされるもの、空気を読む。それらバイアスにどう向き合うか考えさせられる作品。 朝の通学電車で痴漢被害に遭った湊斗と、好きでもない女子の先輩に一方的にキスされた風。電車に乗れなくなった湊斗に風が声をかけたことから、二人は言葉を変えようようになっていく。互いに自分に起こった出来事を話そううちに二人は「大したことはない」と思うようにしていた痛み、言えなかった「嫌だった」という気持ちに、向き合えるようになっていく。透明化される痛みを見つめる友情と勇気の物語
8		空と花のパレード 天川 栄人/作 くりた ゆき/挿画・挿絵 978-4-7743-3948-1	くもん出版 2026.4 1,650円	双子のソラとハナは、この春、希望の高校に合格した。喜びいっぱいの家族に、妹のソラが放った、驚きのひと言とは？自分らしく生きたいティーンズと、その気持ちによりそう家族に読んでもらいたい作品。 双子のハナとソラは、この4月から同じ高校の1年生。憧れだった高校に合格して舞い上がったハナだったが、これまで妹だと思っていたソラから、「自分は男性で、高校にも男子として通う」とカミングアウトされて…。一緒に歩こう。「僕たちはここにいるんだ」って知らせるために、「トランスジェンダー」をテーマに描く青春小説。
9		クローバー ナ・ヘリム/著 キム・キョンスク/訳 978-4-06-539255-3	講談社 2025.11 1,980円	貧しいということとはなんと辛く切ないことか。中3のジョンインは修学旅行に「行かない」。そんなジョンインの元に黒猫の姿をした悪魔ヘルルが現れた。家族を愛するが故の悩み、生きづらさを抱えた方々に読んでほしい物語。 35万4260ウォン。それが、済州島への修学旅行に必要なお金。リヤカーを引っ張って古紙を集める祖母とふたりで暮らす中学生のジョンインには、その修学旅行に「行く」という選択肢がない。そんなジョンインの前に、黒猫の姿をした悪魔・ヘルルが現れる。ヘルルはジョンインに魅力的な「もしも」をさまざま提示し、ジョンインに「選択」を迫るが……。格差社会の日陰にある痛みと尊厳をユーモアで照らした、少年と悪魔の1週間の物語。
10		ヘレンケラーとかわした手紙 横田 明子/作 978-4-580-82735-6	文研出版 2025.12 1,760円	大学1年のある日、高熱で失明した岩橋武夫。視覚障がい者のための施設「ライトハウス」を日本で創設するなど、困難を抱える人々が自立できるよう力を尽くし、勇気づけようとヘレン・ケラーと交流をもった人物の記録。 岩橋武夫は、十九歳の時にとつぜん、失明した。武夫は家族の愛で生きる力を取りもどし、目の悪い人々への福祉活動に情熱を注いでいく。そんな中、講演先のアメリカでヘレン・ケラーと出会った。日本とアメリカをつなぐ手紙のやりとりで親交を深め、ついにヘレン・ケラーの来日が実現した。通信手段が手紙しかなかった時代に、国境を越えて、心の光を追い求めた二人の物語。
高等学校				
1		咲良は上手に説明したい 滝沢 志郎/著 978-4-569-86062-6	PHP研究所 2026.3 2,090円	電車の運休を伝える駅のホワイトボードの案内文の意味不明さが、一人の通りがかりの女性の手で、劇的にわかりやすい説明文になった！ その出来事に、テクニカルライター(取説を作成する)を志した咲良の奮闘を描くお仕事小説。 AED、ベビーカー、シェアオフィス……様々な“トリセツ”を「分かりやすく、正確に」伝えるテクニカルライターを描いたお仕事小説！
2		森島章子は人を撮らない 秋永 真琴/著 978-4-488-02946-3	東京創元社 2026.4 1,980円	写真を撮る社会人サークルに入っている大学生の章子。彼女は日常のなにげない風景を撮る。彼女の写真は不思議な空気感に満ち魅力的である。ポートレートを撮ることをすすめても決して撮らない。撮ってはならないその理由とは……。彼女と彼女をとりまく人々の温かくも切ない物語。 アマチュア写真家が集う社会人サークル(札幌フォトジェニック)に所属する大学生の森島章子。彼女の撮るものは、日常の何気ない景色ばかりなのに、どこか人を惹きつける不思議な魅力を具えていた。章子に撮ってもらいたいという人は多く、周囲もポートレートを撮ることを勧めるのだが、彼女はかたくなに誰にもレンズを向けようとせず……。元恋人、サークルの知人、小説家志望の歳上の女友だち、家庭教師として勉強を教えている中学生。周りの人々の目に映る章子の横顔と、章子がファインダー越しに覗く世界を描いた、心揺さぶる青春群像劇。

3		<p>2026緑陰図書</p> <p>劇場という名の星座</p> <p>小川 洋子/著</p> <p>978-4-08-770038-1</p>	<p>集英社</p> <p>2026.3</p> <p>1,925円</p>	<p>昨年から、周辺の再開発と建替のため、一時休館中の劇場を舞台にした短編作品集。非日常の世界を観せる劇場は、舞台上の役者だけではなく、スタッフや観客も主人公のひとりである。劇場の歴史と思いの満ちた物語。</p> <p>2025年2月をもって一時休館となった帝国劇場の記憶を未来へと繋ぐ、豊饒な物語。白杖の父が遺した、ミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」のパンフレット。そこには新人案内係からの手紙が挟まれていた―「ホテルさんへの手紙」少年は、劇場のステンドグラスの裏側に寝泊まりしていた。舞台袖、楽屋食堂、馬小屋…館内を自在に歩き回る彼は、ある人を永遠に探し続けている―「内緒の少年」ほか全八編を収録。</p>
4		<p>原発回帰を考える 3・11から15年目の大転換</p> <p>日本ペンクラブ/編</p> <p>978-4-08-721399-7</p>	<p>集英社 集英社新書</p> <p>2026.2</p> <p>1,210円</p>	<p>2026年3月は福島第一原発事故から15年である。レベル7の重大事故からわずか15年で、政府は大転換の方針を打ち出した。核のゴミ、廃炉、ふるさとへの帰還等、解決のメドさえたたない問題が山積みである。作家、ジャーナリスト、詩人、研究者が核を取りまく問題を熱く語る。</p> <p>原爆被爆から八〇年の二〇二五年、日本政府は原発新設方針に大きく舵を切り、核活用拡大に転じた。二〇二六年三月は、福島第一原発事故からちょうど一五年。レベル7のあの事故からたった一五年で原発回帰へ。大転換の背景にいったい何があったのか。そもそも地震国日本で原発は可能なのか。原発事故以降最大のこの政策転換に、我々は今何を学び、何を考え、何をすべきなのか。作家、ジャーナリスト、詩人、研究者らが思いを熱く語る。</p>
5		<p>夜明けのハントレス</p> <p>河崎 秋子/著</p> <p>978-4-16-392070-2</p>	<p>文藝春秋</p> <p>2026.2</p> <p>2,035円</p>	<p>容姿も、学力・身体能力も、経済的にも恵まれている大学生のマチだが、これと言って打ち込める何かがない。そんな彼女が出会った狩猟の世界。新人ハンターとして歩み始める自然、命への葛藤と成長の物語。</p> <p>命を撃つ。その意味を、私は掴みたい。〜〜大学生のマチが出合った狩猟の世界。新人ハンターとして歩みを進める彼女の前に、一頭の熊が現れる??直木賞『ともぐい』の著者・河崎秋子が北海道を舞台に描き出す、狩猟と狩猟に携わる人々の物語。それは、すぐ隣にあるリアルな現実。〜〜「撃たれる動物にとっては、撃った人間が男か女か、お金があるかないか、容姿がどうか、関係ないんだって。そういうの全部、関係ないところに私は行く」</p>